

「一次のことば」から「二次のことば」への円滑な接続
～言語環境を中心としたスタートカリキュラムの作成を通して～



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

寺岡 聡志 Teraoka Satoshi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 保幼小連携教育・言語環境・スタートカリキュラム・
学校段階間の円滑な接続・音声言語と文字言語



研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

本研究のテーマは『一次のことば』から『二次のことば』への円滑な接続である。研究の背景・目的、方法は以下の通りである。

【研究の背景と目的】

幼児教育と初等教育の円滑な接続が希求される要因として、幼児教育と初等教育の「学び方の違い」が挙げられる。一方、岡本夏木の論考からは、幼児教育と初等教育の接続にあたる入門期は、『一次のことば』から『二次のことば』への移行期でもある。つまり入門期とは、「学び方の大転換」という側面だけでなく「言語環境の大転換」という側面がある。

そのため本研究では、幼児教育と初等教育の円滑な接続を実現するために、言語環境を中心としたスタートカリキュラム並びに国語科のカリキュラムを作成することが目的である。

【研究の方法】

- ① 国語科教科書の入門期の学習材に見られる「一次のことば」と「二次のことば」の実態調査
- ② 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動における児童の「一次のことば」と「二次のことば」の実態調査
- ③ ①②の調査を鑑みた、「一次のことば」から「二次のことば」への円滑な接続を実現するスタートカリキュラム並びにカリキュラムの作成

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

■「幼児教育と初等教育の円滑な接続」を実現

学習指導要領には「学校段階間の円滑な接続」として、幼児期の教育と初等教育との円滑な接続を希求している。その要因として挙げられているのは幼児教育と初等教育の「学び方の違い」である。一方、幼児教育と初等教育の接続にあたる入門期は、「子どもを取り巻く言語環境」の転換期でもあり、「コミュニケーションの側面」からも「学びの対象の側面」からも「一次のことばから二次のことばへの転換」の時期にあたる。そのため、「学び方」だけでなく「子どもを取り巻く言語環境」を鑑みた上で、幼児教育と初等教育の円滑な接続の実現を図っていく。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「生活科との関連を図る上での国語科教科書の役割に関する一考察
～身近な自然を観察する学習を手がかりに～」
- ・「小学校1年次における『説明的な文章を書く活動』の困難要因に関する一考察
～発達心理学の論考を手がかりに～」